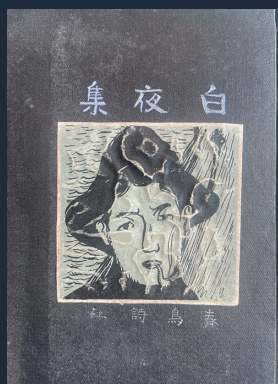


港が開かれ、商業が発展し、人口も増えて文化の交流が盛んになるにつれ、小樽の文学もさまざまに花開いていきました。本展は小樽の文学史を振り返る企画の第一弾として、明治、大正時代にスポットを当てます。

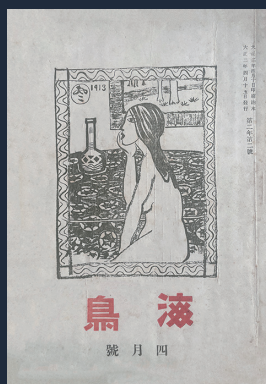
大竹元一、青木郭公、小田観蛸、石川啄木ら江戸後期から明治に生まれ歌や俳句を詠んだ人々。啄木に憧れた、高田紅果、藤田南洋。庁立小樽中学校の学生が中心になった同人誌に作品を発表した、中津川俊六、林容一郎、戸塚新太郎、笠間良助。小樽高等商業学校に学んだ比良暮雪、松原地蔵尊、小林多喜二、伊藤整。誰もが一度は聞いたことがある人物や作品から、無名のまま早逝した文学青年まで、仲間とともに高い志のもと発行した同人誌、当時の日記などの資料から、小樽に過ごし文学に親しんだ人々の足跡をご紹介します。明治大正期を中心とした小樽文学史全体の流れを俯瞰するとともに、展示を通して新たな人物や作品と出会う機会になれば幸いです。



『白夜』第1巻 第2号（大正4年10月）
高田治作編集、島崎庄一郎発行、左文字書店



『白夜集』第1巻第1号～第1巻第4号
（大正4年9月～大正4年12月）
高田治作編集、島崎庄一郎発行、左文字書店



『海鳥』第2年 第2号（大正2年4月）
藤田武治編集発行、海鳥社



『白線』5号（昭和2年1月）
西浦しげを編集発行、白線社



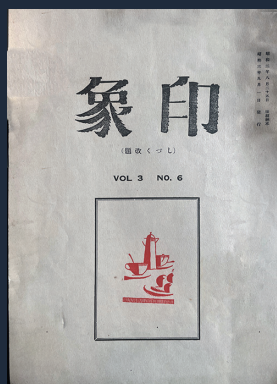
『はらご』創刊号（大正15年3月）
芳賀源吾編集発行、小樽柳吟社



『はらご』第5編（昭和2年1月）
芳賀源吾編集発行、小樽柳吟社



『白線』8号（昭和2年8月）
萩原兒編集発行、白線社



『印象』VOL.3 NO.6（昭和3年9月）
浅田省三編集発行、印象社

小樽文学今昔物語 1

2025年 6月28日(土)～9月7日(日)

休館日：毎週月曜日（7/21、8/11を除く）、7/22(火)、23(水)、8/12(火)、13(水)

開館時間：9時30分～17時（最終入館16時30分）

観覧料：一般300（240）円、高校生・市内高齢者150（120）円、中学生以下・障害者無料 *（ ）内は20名以上の団体料金

主催：市立小樽文学館

後援：小樽文学舎

協力：小樽市総合博物館

市立小樽文学館

〒047-0031 小樽市色内1-9-5 tel.fax.0134-32-2388



公式 X で
最新情報発信中！

